八日夕刊
磐城每日新聞
□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵税　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城每日新聞社
發行兼編輯印刷人　森合英

新體制下の商人道

下

（田町）　野崎生

斯く論じ來る時、配給品に對し己れの利益多かれと望む實績主義云々は何れに落ち付くや、

次に公益優先を第一義として、組合員に實績率による商品の配給のため組合員各自の實績を算出するならば、御說の通りの實績算出はその方法正か邪か、先づ實績とは何ぞやを論議せねばなるまい、全体主義的統制經濟下に於ける合理的配給比率算出の實績であらねばなるまい。

過去の仕入並に販賣等による實績は、自由主義時代の個人々々の狀況に左右せられた私益追求主義の實績である。新体制下の實績とは、少くとも、仕入（販賣）實績に、設備機能、地域（人口密度）等々を含むべきではあるまいか、

荒物商組合の配給比率なるものは知らないが、追求の爲めの誤られた比率決定であつたら多いに改められ度い。要するに、實績云々により配給比率を決定し己れの商品をより多く獲得せんとするそれ自体が、時代に逆行するものなり、要は、組合員各自最少限度の生活に甘んじた企業合同的の組合であらねばならない、斯くする事により徒らなる實績云々による商品奪合も解消し、消費者に對する配給統制の合理化が完うされるのである。

失言多謝

文藝

翼賛會も亦矢鱈に言葉を濫發する事に依つて指導し得るといふ觀念主義から十分解放されてはゐない様に見える　（樺俊雄）

長生きの話

松村亨

（九）

から云ふわけで長生きの問題はもはや個人的の問題ではなく社會的の問題であることを私は特に强調したい、現在北支に中支に南支に私共の同胞はこんな長生きの問題とは凡そ無關係の如く生命を死線に曝して奮闘してゐられる、死も亦國家の爲である。然し大陸建設は永い、子々孫々の問題である。同胞はこのために我等の環境を害する諸多の原因を除き、よりよき生命への基礎を一方に於て作らねばならない。是に於て死も亦國家の爲であり、長壽も亦國家の爲である、

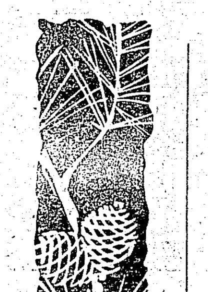
凡そ長壽の年齢は世のため道のためにこそ願ふべきものであつて、個人のためには恐らく何もそんなに願ふべきものでもあるまいと考へる。私共は老もうに隋せず痴に陷らず老いて益々壯んに世のために盡さねばならぬ……するだけの分擔をこの世になし終へて來るべき世に歸つて行くと云ふ態度で……重ねて云つておきたい、長壽は決して個人のため願ふべきものではない人のため世のため道のためにこそ願ふべきものである。

（完）

長々と「長生きの話」をだら〳〵と續け誠に申譯ありません。今度書く時はもつとしつかりしたものを書く積です。しかしこれを書くについても約二十册位の本を拾ひ讀みしました。お陰で好い勉強になりました。此點を感謝します。

俗の日は　土塊くだきて
早まきの　たねをまきけり
物いはず

俳句



淺春

（四倉町）　穗靜

熱光いまだ遠きを河楊萠え
朱のまだらたゞに亂れて春の雲
淡雪の浮ぶ水面に浮寢鳥
淡雪のとけのこされて石蕗の下
かげろふのぼる机上に讀書かな
薄氷の下を横切れる魚の見ゆ
早春や梅の香にほふ夜の雨
はや細き一枝にそゝぐ陽春かな

きさらぎ句屑

（平）　霞ケ浦人

あかどきの木々如月の吹息見ゆ
春寒や芦州の枯に水ましぬ
淡雪や井の端に見ゆる竹の靑
雀來の梅は梅の香をはなちゐて
みちのくや梅の白きに雪つみぬ

連續講談

異說赤穗浪士

（143）

桃川若燕
畫　城木喬

最後の墓參

『如何なる次第で離別になつたか早く申して見よ』

『恐れ乍ら申し上げます。利兵衛さんとは飽きも飽かれもせぬ仲でございます。九年の間連れ添うて居ります』

『コレ〳〵その、控へろ、恐れながら利兵衛より申し上げます。その者は亂心して居ります』

『控へろ、コレその、申せ』

『ハイ、離縁になりましたのは丁度淺野樣の御家騷動のときでございます。利兵衛さんは芳松を連れて赤穗へ行き親子諸共死ぬ覺悟と申して……』

『控へろ、ウーム淺野家……』

熟つと利兵衛の顏を見てゐた河内頭の面には利兵衛の背後にある人物が判つたかのやうであつた、

『その、もう云ふには及ばぬ其方利兵衛の一身上の事につき申し上げたき儀ありと云ひ乍ら、更に證據もなき事を申す、察するに其方亂心したるものと見える故、追つて取調べる。その地守太郎兵衛方に預け申し付ける。左樣心得よ』

これは河内守の情で、大石同樣松野河内守も山鹿素行の門下生。學識もあるゆゑその者が語る內に早くも淺野浪士の仇討の意あるを見拔いたは偉いもの、利兵衛は其儘下げられたがそれからと云ふものはお調べがない。此事を大阪表においてある木內又兵衛と云ふ大石の腹心の者から大石の許に知らせて寄越したから浪士一同もホツト安堵した。その內に大高源吾から

『來る六日には吉良邸にお茶會がある』

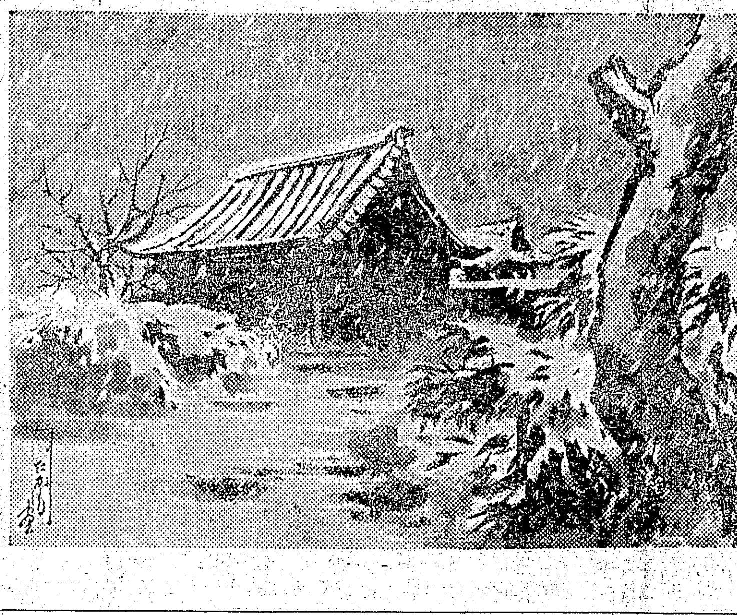
と知らせて來た。そこで小野寺吉田を早速に集めて討入りの儀を協議すると間もなく

『茶會は取止め』

と云ふ報告がある。同志がこの報告に失望落膽してゐると更に延期した茶會が來る十四日に催すと知らせて來た。それに續いて横川勘平からも大高同樣十四日と知らせて來る。而も横川のは大高のと違つて茶道宗匠山田四方庵からの手紙の內容まで記してあるからもう間違ひはないと同志一統は雀躍りして喜んだ。そこで大石から若し十四日に再び取り止めになつたら十七日に敵討を行ふ事にすると同志に傳へた。

さていよ〳〵討仇の當日十四日となつた。浪士一統此の日を迎へた悅びは云ひやうがないくらゐ、早朝より降り出した大雪は尙紛々として降り止まず、その雪を冒して三々五々高輪萬松山泉岳寺に集まつた。大石は集つたを見屆けると本堂のうら手冷光院殿御墓前に兩手をつき、

『亡君尊靈、何卒我々の忠節を御照覽下さりませ。今日の仇討の期日と致しましたは始めより思ひ設けぬ事にございました。然るに、圖らずも殿御命日に仇討を致すやう相成りしも御導きのゆゑと存じ奉ります。これが此の世のお暇乞ひと心得參じましてございます』



と涙と共に禮拜。續いて浪士一統各々墓所に詣で、それが終ると一同御墓所を去つて方丈を訪ひ

『今日は亡君の御忌日でございますれば一同茲にて御齋にも預りたく、何分にも各々が浪々、今日集りしも僅かに四十余人、明日又何處へ散るやら判らぬ身でござればイツ又再會の出來るや否やも判り申さず、それゆゑ永の別れを惜しみたうござれば……』

『オヽ、それは〳〵お心易い事でござる、サヽずつと此方へ……』

と客殿に案內。大石は御布施として白銀三枚を包んでそれへ出す。その內に出されたのは精進料理、一同それを認め終ると小坊主共が來て膳を下げる。

食事。
喫茶。
酒場を兼ねた。
レストラン
サロン
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より、
閉店…午後十一時限り、
平市銀座街
電話五九二番

磐城セメント
小賣指定
大谷石を賣始めました
野内商會
平市南町
電話一一番

高級林檎酒
ミユキ
釀造元　青森縣弘前市　株式會社　御幸商會
福島、茨城販賣元
石井德重商店
久の濱町　電話三二番

成田團体募集
一、期日　四月三四日　午前七時卅七分平發　午前九時頃成田解散
一、會費　金九圓貳拾錢也　宗吾靈堂御護摩料ヲ含ム
一、定員　百五十名　準備ノ都合アリ滿員ニナラヌ中ナルベク早ク御申込ヲ乞フ
平市大新榮講
講元　井上貞治郎

巴式風呂釜
設備一式
大谷建材店
平市紺屋町　電三六六

外科主任　副院長　高橋俊幸氏　腎臓ニテ暫ラク靜養中ナリシモ今回全治、二月一日ヨリ再ビ診療ニ從事ス、
平病院（元共濟病院跡）（電話四一番）
院主院長　醫學博士　鈴木定藏
內科、小兒科　レントゲン科　物理的療法科　院長　鈴木定藏
內臓一般外科　皮膚泌尿器科　副院長　高橋俊幸
藥劑師部長　吉本幸平
每日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます
急患は此の限りにあらず

タンス・鏡臺
御婚禮調度品を取揃へました
是非　㊞和　和久井屋へ御越し下さい
平市一丁目（電話四〇五番）

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店　關內正一
事務取扱者　阿部助次郎
平市二丁目　電話一六番

國民精神總動員
日本國民必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
一部十セン
お取次致して居ります
平二　西村屋藥局　電三

時局の生んだ新案特許
日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何回ニテモ使用出來マス
實用新案　メモ板　第二七九〇四號
野球ベール　第一七九七三號
興亞ノート　第二四七九八號
專賣特許　興亞厚紙　第（イ）一七三六〇號　第（ロ）一七三六一號
合資會社　興亞特許商事
同工場　月見町三三

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市驛前中央通り

平　往復券2割引40錢　四倉
▽新舞子　約二丁
▽仁井田浦　約二丁
▽四倉海岸　約一丁
▽波立藥師　約八丁
▽鰐ケ淵　約八丁
團体は特に御相談に應じます
合名會社　電話五四九
平・四倉・乘合自動車

榮養調味
味の種
醬油、鰹節、砂糖の經濟
極く少量の〃味の種〃を御使用になれば七分搗米や外米もフンワリ美味しく、榮養も高めて召上れます
△御飯を炊くとき米一升に對し小盃一杯
△其他和洋支あらゆる御料理に適宜に用ひると特有の味を生じます【二合瓶七十錢、四合瓶一圓三十錢、一升瓶三圓】
代理店　白菊酒店　平市田町【電話五四番】

㊅の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム　ソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水產特約
ヒノマル食品店
平市三丁目　電話三三八番

便利で經濟な
日下家政婦會の派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから何をお任せしてもご安心です
平市一丁目三一番地（電話七二三番）
日下家政婦會
會長　日下すい子
會員同志の御加入を御誘ひ致します（派出なき閑暇に裁縫や編物をお敎授致します）

肋膜。氣管支。關節。神經痛。肺炎。ロイマチス
扁桃腺・中耳炎・骨膜等の痛む疾に
漢方貼藥
濕布で名藥
生公華
藥價　二圓五十錢　四圓　八圓
專賣店　平市五丁目角　辻野邊藥局

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

三笠燒
色羊羹
味自慢　風味萬點
平驛前中央通
米屋最中店
モナカ屋がお茶受御土產として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます

鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

第五校案上程

平市豫算市會開く

平市明年度豫算市會は八日午後一時四十分から市會議事堂に開會、出席議員二十三名、劈青沼市長から豫算案の内容を歳出・歳入に亘つて説明する處あつた、豫算總額は經常部二十七萬八千八百七十六圓、臨時部四十一萬三千五百三十一圓、合計六十九万二千四百七圓莫の大な額に上り第五國民學校建築費二十五万二千餘圓、商業學校增築費三万六千余圓計上した爲前年度當初豫算に比較すると二十三萬余圓の增額となり、工業學校寄附金並に第五校敷地起績を追加した本年度更正豫算六十六万余圓に比し三万一千余圓の增額と成つてゐる

市民の賄料
692.407圓

經費節約一點張で徹底的な緊縮

學校建築に主力を注ぐ

豫算案を全般に亘つて檢討すれば次の如く第五國民學校新築並に商業學校增築を除いて他は殆んど節減の一點張りで進み見るべきもの無く近年の豫算に見ぬ緊縮振りを示してゐる

經常部 では役所費に於て區長の報酬を六百六十圓減じた外雜給其の他で總體的に五千圓減じてゐるが食糧增産の建前から農業技術員を一名設置し、主事を一名增員する、土木關係でも三千三百圓減じ、國民學校費七千三百余圓、商業學校費一千五百圓と何れも減じ、青年學校費は七百九十四圓增してゐる水道費に於ても八千八百圓減じ公園費は植樹するため改良費僅かに五百六十七圓增額、勸業費千三百余圓減、警防費は人員增加に依る手當て關係と防空施設のため二千六百圓增額され、經常部では前年に比し總額で一萬八千余圓の減額である

臨時部 では市廳舍修繕のため一千圓增額、土木費は市道三ヶ所開鑿のためこれも九百六十余圓增、商業學校費は二千七百余圓減じ警防費に於て前年のポンプ購入費が拔けた關係で五千百二十八圓減じてゐる、第五國民學校建設費は建築二十三萬五千七百十圓、設備一萬二千圓、雜費五千圓と成つて居り、商業學校增築費は雜費一千圓除き三萬五千六百八十五圓が建築費に充てられる

歳入 關係は諸税の增額はせず學校の新築、增築費は全額二十八萬九千三百圓を起債に求めることに成つてゐる

款項目別の豫算内容

經常部	圓
神社費	四五一
會議費	四、二九五
役所費	八六、九七〇
土木費	一三、五三九
國民學校費	三三、七三七
青年學校費	一一、九八七
商業學校費	三八、〇八九
學事諸費	一、六六〇
衛生費	八二三
傳染病豫防費	一、二六二
傳染病院費	四、七二一
汚物掃除費	七、〇七一
水道費	一八、五五八
公會堂費	一、六三六
公園費	二、九八八
火葬場費	一、八〇〇
勸業費	二、〇七八
統計費	八八四
社會事業費	七、四三五
警防費	一九、九六九
懲發物輸送費	一
財産費	九九八
諸説負擔	一〇八
公金取扱費	五三〇
雜支出	一、〇八五
地方振興費	五、六三一
退隱料	六〇六
豫備費	一〇、〇〇〇
經常部計	二七八、八七六

臨時部	圓
役所費	一、三〇〇
土木費	二一、三〇六
國民學校費	三、二一五
商業學校費	五六三
選擧費	五
警防費	四、九三七
公會堂費	三九一
公債	五三、二九八
戻入金	一、四九三
寄附	九、六五六
補助金	四、五〇〇
訴訟費	五
水道費	一〇、九四七
都市計畫費	二、三九七
特別會計繰入	一、五一二
事變費	一、六二八
銃後施設費	五、二八六
雜支出	一、六九七
國民校建設	二五二、七一〇
商業校增築費	三六、六八五
臨時部計	四一三、五三一

容易に口を割らぬ湯本町の怪盜

全國的大物と平署で追求

昨報、湯本町で捕はれた稀代の怪盜は取調べの警官に對し『警視廳でも手余した俺れをよく捕へたものだ、然し俺は死んでも自白しないぞ』と豪語し口を緘して語らないが追求の結果

東京市本所區大平町一ノ七
機械商柳瀬勇(三四)

と自稱してゐるが犯行に對しては尙口を割らず、署員を手古摺らせてゐる、同署では全國的な大物と見て警視廳初め各地へ照會身元を洗つてゐる

怪盜柳瀬は捕はれたとき懷中に六寸余の白鞘短刀、ペンチ、十數個の合鍵、金切り、懷中鋸、旅行案内等七つ道具を所持してゐた

公立中等校巡り（八）

前身は補習學校

中村政氏昔を語る

平商業の巻
2

平商の歴史

平商業學校の創立は大正二年五月となつてゐるが、これより先商業教育機關設置の必要を認めた平町當局は當時の平第一校長武川敎義、助役荻善述、學務員横内直温の三氏を大正元年十二月に福島、郡山、須賀川等に出張、該地の商業教育の狀況を視察せしめその報告にもとづき修業年限三ヶ年の商業補習學校を平町に設置することとし、町會の協贊を得て創立し、當初は平第一校内に附設、校長も武川敎義氏が兼任となつてゐたのである。大正二年五月一日に授業を開始した時は生徒は僅かに四十五名であつた。大正八年十月生徒が增加して來たので田町の今の市役所の校舍に移り大正九年には商業補習學校より商業學校に昇格、名實とも商業學校としての第一歩を踏み出したのである。次いで昭和三年揚土台の磐中舊校舍に移り、昭和五年に修業年限五ヶ年の商業學校となり一昨年現在の校舍に移つた事になつてゐる。ここで先般在職二十年の平商業を去つて今堀江工業に御勤務中の中村政氏に昔の先生の追憶談を伺つて見よう。

『いろ〱の特色のある先生方の中で先づ第一に高野秀松先生は忘れられない方であらう。この先生は在職中おなくなりになつたが、校長が兼任時代の敎頭として平商今日の發展のためには隨分つくされた方です。仙台商業の御出身で、商業學の御造詣が深く、福島、須賀川の商業學校から平商へ御來任になつた。この先生は膽放磊落、お酒も相當いける人でした。御遺族の方は現在平市で夫人が保險の勤誘に從事し、五男一女があり、長男の方は陸士に入つてゐる筈である。

阿部長年先生、その先生も仙台商業の出身で、文筆に興味を持ち、いろ〱のことに對して經營の才を持つてゐた。平常和服で、縫紋の羽織をつけ袴を穿ち、白足袋といふいでたちで、美髯を蓄へて居つたので、その貴公子然たる姿に對し、生徒は長年朝臣と稱してゐた。現在鹽釜で商賣をやつてをられる

長谷川四良先生、この方は磐中から拓大に學んだ先生で、現在樺太で警視の警察署長をやつてゐる。先生の後身としては變つた方であらう。

吉田利吉校長は東京商大の附屬養成科を出た方で、岡山の人、中等學校は師範學校の出身でした。神戸神港商業から福島商業、と轉じて卅二才位で平商の校長となり才氣渙發、好く讀み好く語るといふ先生であつた福澤諭吉氏を尊崇し、生徒には温情を以て臨み、學校は樂しく學問する所とせねばならんといふことを主張してゐた。庭球、ピンポン柔道、何でも運動をやり、しかも生徒と一緒になつて運動するといふやりかただつた。現在の五年制度十五學級の平商にもりたてた人はこの吉田校長である。學校の發展のためには私財をも投じた人で學校經營の才は相當なものでした。後小樽高商の校長に轉じ、前途を殘して退職現在は芝浦製作所の青年學校にをる、兎に角偉い校長で大きな足跡を殘してゆかれた」

おちの良い
マルミ石鹸
平市材木町二
マルミ本舗

遺家族慰問映画會

十日六時から公會堂で

平市銃後奉公會では十日の陸軍記念日に出動軍人の遺家族慰勞のため映畫會開催を計畫してゐたが市内の平館、世界館、聚樂館等各常設館の協力を得て左の如く公會堂へ遺家族並に傷痍軍人を招待することに決定案内狀を發した

△十日午後六時、市公會堂

【映畫番組追つて發表】

尙來場者は新聞紙乃至履物を包む準備をされたいと

郡協力會議の收獲

△指示事項

1、本運動の育成に關する件……常會を强化し下から盛り上る力を育成する

2、興亞奉公日に關する件勤勞……增産日として趣旨の徹底を圖る

3、食糧增産と節米に關する件……市場の米價を高めずに生産者から高く買ふか乃至は補助金を交附、或ひは奬勵金を出して生産者を助成する『縣協力會議を經て政府へ申達すること』に決定更に農業用の資材リヤカ―タイヤなど增配方要望米の增産問題では農業關係議員が多いだけに眞劍に論議され、買上げ値段が安くては水田の減反を防げない、尻を叩いて增産を强調する前に先づ働けるやうな道を作つてやるべきだ」と僞らざる聲を聽く

4、貯蓄奬勵の件……あらゆる機會を通して國債消化と貯蓄の奬勵を爲す

5、軍事援護に協力するの件……承認

6、木炭增産協力に關する件……『製炭者を援助し消費の規正も圖る』縣の要望を容れて常會を通じ殖林その他を徹底せしむる

◇議員提出　安島重三郎氏

1、馬産促進に關する件

2、馬補充計畫に關する件

3、馬糧の自給及配給に關する件

（上級議會へ申達する）

◇議員提案　鈴木賢二氏

油類の配給規正から本縣の揚繰船は合同作業し尙近い將來減じられると思ふ、鰯は大量生産品で榮養價値も高く大衆の食料品であるから充分調査の上考慮して公正に配給されたいと要望しこの問題は縣水産課長が農林省へ具申することになり協力會議では直接取上げないことに成つた

鈴木警察部長

高子巡査を見舞ふ

石城郡協力會議へ指導班長として臨席した鈴木警察部長は會議終了後入山病院に重傷を負うた高子巡査を見舞ひ特別賞與として金一封を贈つた

民間協力者を平署で表彰

湯本町警防團第一分團、仝第二分團並に同町劇場三函座主白石初太郎さん(五四)は何れも同町荒しの怪盜逮捕に協力した廉により即日久和署長から金一封を贈り表彰した

希望に燃えて

商業戰士今日巢立つ

平商業學校第二十一回卒業式は本八日午前十時より同校講堂に於て擧行、來賓として正木磐女校長、蓮沼、關内兩縣議の他、篠山第一校長、長谷川市敎務課長、神谷兼次郎、柴田德二、大塚の諸氏及び中村政元敎諭、その他父兄多數參列、服部校長から卒業生九十六名總代阿部浩君に卒業証書を、續いて優等生及精勤者に賞狀及賞品を授與して後感慨をこめて告辭を述べ次いで青沼市長の告辭、商友會長室橋光氏、保護者會長川崎文治氏、來賓總代蓮沼市會副議長の祝辭があり、在校生總代寺島武彦君卒業生に對する送辭卒業生總代飯島登司君の答辭の後、最後に卒業生父兄總代志賀守衛氏が先生方に謝辭を述べて正午式を終了した

◇優等生（〇印は總代）

〇飯島登司、下山田操、高木秀雄、阿部浩、遠藤鐵之助、柴田二男、鈴木繁雄、松井有三

◇五ヶ年精勤

小川一夫、大槻忠雄、大塚勇、〇下山田操、中軍中、新妻延雄、根本進平、水野克郎、矢吹賓、阿部浩、猪狩敏夫、小泉正春、小山田俊夫、近藤正二、佐藤次男、齊藤正雄、綠川清喜

◇級長五ヶ年勤續者

飯島登司、〇柴田二男

なほ午後一時から講堂で謝恩會が催される

南町のボヤ

綿五貫匁燒いて消す

八日午前八時四十分頃平市南町四十五番地製線業鈴木吉猶方より發火、綿五貫匁を燒いて消し止めた、原因は機械の過熱かららしい

今年の宿題

節米と食糧增産

第四回平市常會は昨報の如く七日開き食糧增産問題その他を熱心に討議し、次の申合せをなした

◎本年は節米と食糧增産問題に主力を置き、指導に當ること

【方法】……▽職工の機能動員、農繁期には職工を歸農せしめ農村の勞力を助ける▽空閑地利用、各隣組を動員し各々組内の空閑地を活用耕作を指導する▽堆肥と加里肥增産、毎月數回各家庭から草木灰を小學兒童に運搬せしめる（具体的には今後研究する）

◎木炭の配給、市内の木炭配給が他の都市に比較して僅少のため、林産物檢査所長の來會を求め增配方を懇談意見を聽取……檢査所側も成るべく期待に添ふやう配給狀況について説明された

◎白米配給問題、升で賣つてゐる店中に不正があるから米の販賣を貫メに直してほしい……この希望に對し米穀組合長菅本委員から資材不足を説明追つて希望に添ふと諒解を求められた

◎市側の報告、今月二十日現在で各家庭の配給米現在高を調査する……分類所得說の申告について說明

泉通運總會

社長重役決定

泉通運株式會社創立總會は昨七日午前十時より泉村藤野屋旅館に開催し社長以下重役支配人を左の如く決定した

取締役小林元藏、齊藤昌平、平澤一久、監査役水野德次郎、西丸豊

尙互選の結果、社長小林元藏専務齊藤昌平、支配人加藤鐵次郎

動員摸擬召集と攻防演習

小名鄕軍十日の催し

聖戰五年を迎へた三月十日の陸軍記念日、小名濱鄕軍分會では意義深き當日拂曉を期して模擬動員召集を行ふ豫定である、下令者は昭和二年以降の既教育者で應召準備の點檢を執行、終つて直ちに攻防拂曉戰を展開するこの演習には小名濱青年學校生徒、玉川村青年學校生徒、鹿島村分會並に青年校も馳參じ午前十時終了、續いて一同打揃つて富ヶ浦公園に參集、忠魂碑に參拜する豫定である

怪盜餘聞

詭計で逃走

擧動不審で捕はれ

怪盜逮捕に躍起と成つて警戒中、深夜の街を徘徊する犯人を擧動不審で誰何駐在所へ連行せんとするや、件んの怪盜は『とんでもない私こそ泥棒に遭つたので駐在所へ訴へに行くところです』と巧みに鋒先きを避け『では一處に行つて見よう』と連行する途中、雨戸の開いてゐる家を見つけるや立止つて恰も自分の家の如く『警察の旦那樣が來たから早く起きろ』と大聲でどなり署員が家へ入らうとするすきに乘じて脱兎の如く闇の中へ盜を隱し、一ぱい喰つた署員も機敏な行動に舌を卷いてゐた

犯人はその後も引續き署員の非常線を嘲笑する如く大膽にも各所に出沒、天運盡きて捕はれるに至つた

隣組通信

【投稿歡迎】

江名町長の改選期は三月二十二日に差迫つてゐる、而して町長改選町會は三月十五日に執行する豫定と聞くが、仄聞するに江名町青年層一部者が蔭に策動し町會議員を訪問して彼等理想の人の爲めに策動大に努め、あべこべに町議諸氏より出過ぎた行動と訓戒されてゐるとか、惟ふに町長改選に際しては町事情に精通した町の代表者たる町議があり、町議諸氏が町の代表者として責任ある良町長を選擧するのが軌道である、一部者策動の爲めに動ずる如き代表者たる町議はあり得ないと思ふ青年達が畫く理想者とは誰かそれ程立派な後任町長候補ありとすれば町議各位は先般承知してゐる筈である、

職域奉公は非常時乘切りに銘々課せられた重き任務である。職域を超えた出シヤバりを愼み平地に波瀾を起す如き銃後畫策は大に愼むべき事であらう。【江名・愛町生】

「油煙に注意」

となりぐみ員

夜の煙突掃除は人目にたゝず、大ヘン結構ですが油煙の始末が無責任では困ります、何十日分もの油煙を一時に散亂させては其の爲近所の家庭は尠からず迷惑を受けます。お互ひに注意しませう『廢物の布で袋をつくり口に紐を通して煙突の下に結んで油煙を受け入れるやうな方法をとつてくれたらよいと存じます』

古河炭礦に落磐

一名即死十四名生死不明

救出作業を急ぐ

今八日午前七時四十分頃好間村古河炭礦第二新斜坑内に相當大きい落磐があり、同坑事務所では時を移さず救助隊を編成入坑中の坑夫救出に努めてゐるが即死者一名掘り出し、逃げ遲れた十四名は生死不明で安否を氣つかはれてゐる（午後二時記す）

小川の火事

風呂場燒く

八日午前二時上小川村片石田仲間谷稔方の風呂場より發火同風呂場一棟を燒いた、原因殘火。損害約三十圓

株券訴訟

鈴木正氏勝訴

小名濱町臨港鐵道對鈴木正氏の訴訟問題は第一、二審共鈴木氏が勝訴、臨鐵側で大審院に上告中であつたが九ヶ月の日月を費し、この程鈴木正氏の勝訴と決定した、この訴訟は臨港鐵道株券四百五十株が競賣に出たのを鈴木氏が競落しこれに對し臨鐵側は株券競賣無効の訴を起したものである

遺家族慰問

四倉鄕軍の計畫

大浦在鄕軍人分會では三月十日陸軍記念日に午前八時忠魂碑參拜戰病死者並に出征軍人遺家族を慰問することに決定

平市慶弔錄

【出生】平市中塩字浦澤二十一番地吉田謙治六女靜江さん△平市材木町三十五番地小山内三郎長女ハツミさん△平市古鍛冶町二十九番地佐藤繁雄長女律子さん△本籍平市大字中平窪字勝見澤現住所東京市足立區千住旭町三〇上妻昌次男洋さん△平市大工町一五坂本久四男欣則さん△平市大字上平窪字原田一一神永隆男四男和一△平市一丁目綿引玄三男長女可奈子さん

【婚姻】△平市三丁目十八番地山本芳雄(三九)さんと横濱市船越鈴木マサ子(三四)さん△平市南町三十一番地佐藤金正(三三)さんと伊達郡大綱木村齋藤ミトリ(三三)さん本籍平市立町現住所東京市城東區北砂町三ノ八佐藤留藏(二七)と栃木縣塩谷郡矢板町庫吉次女柳田キミ(二三)

【死亡】平市材木町九木田松太郎(五六)△平市柳町九會川トキ(五二)△本籍平市字紺屋町現住所東京市芝區宮本町一五青天目源一郎姉光子(四二)

銃後の赤誠

平市松村醫院主松村鐵郎氏は貴金屬を賣却した二十圓を海軍國防費並に陸軍恤兵部へそれ〲十圓宛寄附、七日市役所へ寄託した

◇

平市仲町平裁縫所の御代アヤ子さん外十六名は例年の針供養を廢して陸軍恤兵部へ金八圓獻金

◇

南町四一番地臼井濟、仝出の兩名は海軍國防費へ金五圓獻金

◇

平郵便局長川村浩氏の息欽一君の歸還御禮に銃後奉公會へ金三十圓寄附

◇

平第二小學校六年二組稻島トシ子、若色久子、橋本貴美子の三少女は『兵隊さんへ送つて下さい』と慰問袋一個市役所へ寄託した

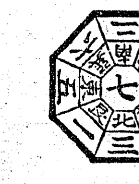
今晩　北西の風時々曇りますが一般に晴れがち

明日　南東の風晴れたり曇つたり

（九日）

滿潮　前二、五五　後二、〇五

干潮　前六、五五　後七、四五



舊　二月十二日
日曜　丙辰　先勝　除　虛宿
新　三月九日

▲一白　毀譽褒貶を氣に懸けず貞實に職分を勵み吉

▲二黑　業務振はざる樣なれど勉むれば發展すべし

▲三碧　惡剌なる手段に陷りて再起容易ならざる日

▲四綠　職責を重んじて忠實なれば不幸も遠ざかる

▲五黃　粗暴の計畫を立てず舊業を守れば咎を免る

▲六白　運途佳良にして輕進さへ愼めば繁榮すべし

▲七赤　見込違ひにて後日に悔ゆる事あり新計畫凶

▲八白　不祥の事は無けれど心落付かざる注意の日

▲九紫　氣運一轉して新生面を開くに好適の日なり